

## 諸説はあれども日本全国三大話 日本三大杜氏

フリーライター 永浜敬子  
(八〇六字)

### profile

ながはまけいこ フリーライター&コピーライター。京都府出身。新聞社、広告制作会社を経てフリーに。料理、食文化、健康・医療、ビジネス、サブカルチャー関係を中心に雑誌、広報紙、webで執筆。現在、『日経トレンディ』『Meets Regional』で連載中。著書に県民性をユニークな視点で考察した「なかもんの踏絵」(べんぎん書房)、『ビハ★いなかもん!』(講談社)、『なまり亭』(ワニブックス)などがある。

日本酒ブームといわれている昨今。国内での消費量はもちろん、海外への輸出量も順調に伸びている。

日本酒は蔵元で杜氏(とうじ)と呼ばれる酒造りの職人の手によって作られる。その昔、酒造りは女性の仕事だったが、酒の需要が増えるとともに、力仕事が多くなり、次第に男の仕事になっていったのだ。現代の杜氏制度は江戸時代に成立したと考えられている。現在では蔵元の間人が酒造りを行うところも増えてきたが、基本的に蔵元がオーナーで杜氏は製造を担う職人。

続いている。

杜氏集団はほぼ全国にあり、各集団によって独自の酒造りの技術が受け継がれている。酒は原料となる米やこうじ、水によって味わいが異なるが、どこかの杜氏が作るかによってもその出来上がりが左右されるのだ。

日本三大杜氏とされている中で一番数が多いのが、岩手県北上川流域の花巻市石鳥谷町を拠点とする南部杜氏。自家醸造の域を出なかつた酒造りを江戸時代に藩や商人、農民が一体となって組織化に成功。以来、南部地域の一大産業となり、現在でも杜氏数は全国最多を誇っている。

杜氏は、その土地の杜氏集団に属し、冬場の酒造りの時期だけ蔵に集まって酒を作る派遣システムが江戸時代から

南部に次ぐ杜氏数は、新潟県中南部で発祥した越後杜氏。米どころとして古くから

酒造りが盛んで、その高い技術をもって全国各地で活躍。

昭和五九年には新潟清酒学校という、清酒の醸造を学ぶ学校を設立し、後継者の育成にも力を入れている。

そして歴史の古さと高い技術力で知られる兵庫県篠山市周辺発祥の丹波杜氏。江戸時代から日本の酒造りの中心的な役割を担ってきた集団だ。灘の蔵元たちが灘で育て上げた杜氏集団で、全国の蔵元に派遣され、酒造りを指導し各地方の酒の原形を作ったといわれている。全国的に有名な灘の酒を支えているのももちろん丹波杜氏。

日本酒を傾けるときは、江戸から続く杜氏の技に思いを馳せると、ひと味違った楽しみ方ができるかもしれない。

## ショート・コラム 1

### いまだ謎のままの ロズウェル事件

(二〇八字)

一九七〇年代の後半、日本はいわゆるUFOブームの中にあつた。未確認飛行物体をテーマにしたテレビ番組を、ドキドキしながら見たという人も多いのでは？

その中で、よく取り上げられていたのが、アメリカ合衆国ニューメキシコ州ロズウェルに墜落したUFOを米軍が回収したとされる事件だ。それが起きたとされるのは一九四七年七月八日。今年でちょうど七〇年となる。この出来事をテーマに多くの映画や小説が誕生したが、真相はいまだ謎のままだ。

## ショート・コラム 2

### ほおずき市の功德は 一二六年分!?

(二〇〇字)

観世音菩薩の縁日には「この日に参拝すると通常の何日分もの徳が得られる」という功德日が当てられてきた。東京の浅草寺の最大の功德日は七月一〇日。なんと四六〇〇〇日分、およそ一二六年分に相当するぞうだ。

そんな日に、実を丸のみすると病気が去るといふ民間信仰のあるほおずきが売られるようになったのが、ほおずき市の始まりだとか。ただ、ほおずきには子宮を緊縮させる成分が含まれている。妊婦は口にしないようご注意ください。